1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2295400069		
法人名	株式会社アース		
事業所名	グループホーム　まーがれっと島田		
所在地	静岡県島田市横井2丁目２５－６		
自己評価作成日	平成２７年9月17日	評価結果市町村受理日	平成27年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2295400069-00&PrefCd=22&VersionCd

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価　調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町４－１
訪問調査日	平成27年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様と、ともに毎日の生活を創るよう意識しています。
活動や行事への参加は、ご本人の意思を尊重しています。ある行事に不参加であった方には、その方が参加したくなるような活動を探してお誘いしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

生きる意欲や健康につながる「笑顔」を大事にしているホームである。利用者が心より嬉しいと感じ、良い笑顔で落ち着いた生活が出来るように、職員が一人ひとりの思いや特性・癖を共有し、言葉かけなど細かい配慮をしている。家族には、日常の様子や利用者の笑顔を写真で伝え安心に繋げている。家族以外にも親戚や友人が気軽に立ち寄り、ゆっくりしていく様子も見られた。より安全な生活を目指し、管理者は運営推進会議や防災計画などから問題意識を持ち、意欲的に改善に取り組もうとしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	8月末までは「お一人おひとりの生活ペースを大切にしたケア」に取り組み、9月からは、入居者様本意にもう少し目を向けようと、「入居者様がいつも活き活きと暮らせるよう、わたしたちは常に笑顔でサポートします」に取り組んでいます。	法人（株）アースの理念の他、職員で考えたホーム独自の年間目標や職員各自の個人目標を立て、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やごみ出しなどで出会った方には笑顔で挨拶をするよう心掛けている。 地域のイベントには、できる限り参加させていただいている。	地域への清掃ボランティア活動「グリーンデイ」などの活動を通じて、地域の一員として溶け込む工夫をしている。職員と共に利用者や民生委員も一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、新しい取り組みを紹介したり、地域の一般高齢者支援にも役立つような情報を発信している。 外出活動を通して、地域の皆様に暖かく迎え入れて頂けるよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特に事故報告に対してのアンテナが高く、原因究明や改善策などに多くの意見を頂いている。	認知症であるが故に起こり得る事故事例など、認知症の症状を説明して理解を深める場にしている。市職員や地域包括支援センター・民生委員・大家・地域住民などの参加がある。	町内会福祉委員の参加はあるが、町内会長、家族の参加が無い。地域密着型施設として、又運営への家族意見の聴取の場として、より有効な場とする取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告の類は、必ず管理者が出向き直接話をする機会を作っている。 敬老会の助成金制度や、台風後の被災状況報告など、市の呼びかけには積極的に取り組んでいる。	水害時の防災計画や地域住民の協力体制について、市と話し合いを重ねている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修に、毎年「身体拘束について」を組み込み認識を深めている。 玄関の施錠については、「急な飛び出し行動の可能性があり、且つ職員配置上危険を防ぎきれない状況の場合」のみ認めている。	利用者の行動を細かく観察し、安全と自由のバランスを熟考した上で、工夫しながら取り組んでいる。職員の見守りの中、利用者は自由な暮らしをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	市の虐待防止研修への参加（管理者）。 職員研修に組み込んで周知徹底を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修への参加（管理者）。 入居時に、包括支援センターを中心に成年後見人を立てる相談を進めさせていただいた方がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	些細な改定でも、必ず文書でお知らせし、質問の窓口を作り対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を常設している。 また、口頭で頂いたご意見も『ご意見ご要望書』に書き出してその後の対応を職員会議で検討している。	利用者の生活を写真で記録し、日常の様子を家族に紹介している。家族の来訪時に職員は笑顔で接し、意見や要望を言い易い雰囲気を心掛けている。運営推進会議への家族の出席がなく課題となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所管理者が窓口となり、職員の意見を本社幹部に伝えている。 事業所内で解決できるレベルの意見は、職員会議で評議している。	全体会議やミーティングで意見の聴取をしている。半年に1度職員と面談し、運営や法人に対する意見も汲み取る努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、本人評価と管理者評価を面談により擦り合わせている。 本社主催の「働くということ」研修や、「チーム力向上研修」に職員を参加させ、仲間と気持ちよく働ける環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「介護力」研修に必要と思われる職員を参加させています。 無資格の者には初任者研修を職員に勧め、勉学と仕事が両立しやすいようにシフトを調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	志太介護事業者連絡協議会での交流（管理者）。 島田市他グループホームへの訪問（管理者）。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のシートを活用。 入居後数日は、どの職員も本人とゆっくりとした会話の機会を作るように心掛けている。 また、そこで得た情報は介護記録を通して共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居問い合わせの段階から、管理者（ケアマネ兼務）がご家族の立場にたった傾聴に勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム内でできるサービスの中で、順位立てをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所が特に力を入れている点と同じ。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居契約前に管理者（ケアマネ兼務）から、共に本人を支えていく事の大切さを説明し、ご協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には、行きつけの美容院や服屋の利用継続をお勧めしている（難しい方々には訪問理美容を紹介）。 面会は、ご家族から申し出のないかぎり自由に受入れています。	来訪しやすい雰囲気づくりを心掛けている。 入所前の関係を大切にし、親戚や知人なども気軽に訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症同士の共同生活なので、最善のかかわり方を常に模索しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院から退去になる場合に、ご家族から今後についてのご相談がよく持ちかけられます。病院相談員との間を取り持ち、ご家族様に安心して今後を考えて頂けるように支援しています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族にセンター方式に沿った情報を頂き、必要な情報の把握に努めている。また、入居後は普段の何気ないおしゃべりの中から、ご希望やご意向を拾い上げるように努めている。	食事や着替え・入浴時などマンツーマンで関われる時間を上手に使い、思いの把握に努めている。些細な表情の変化やしぐさ等も見逃さず支援に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時を利用してご家族からのモニタリングに努めている。	通常は6か月に1度計画の見直しを行っている。申し送りノートや個別ケアの記録を参考にした経過記録を基本に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員の記す「介護記録」、ケアマネの記す「経過記録」、看護師の記す「受診記録」を活用して情報の共有と介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は、無人の自宅が気になる方のために自宅訪問を行なっていたが、現在は特記すべきものがない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、親類、住まいの近所だった方、幼馴染、などの方々の面会があります。 地域の行事に参加する際には、民生委員や福祉委員・中学生ボランティア、地域のみなさんが手を差し伸べて下さいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診同行は、ご家族の方・看護師の方・看護師とご家族一緒の方と、ご希望に併せて様々です。ご家族同行の受診では、看護師から「生活のご様子」「気になる事」「残薬数」などを文書でご用意しています。	大半の利用者は、入居前からの馴染みのかかりつけ医を継続している。週に2日法人所属の看護師の訪問があり、日常的に健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所での看護師は一人で、週2日の出勤です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ケアマネから情報提供を行ない、退院前には担当医や担当看護師と退院後の生活の支え方について相談します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず入居時に、終末期についての意向確認と同意書を頂きます。これは、容態の変化に応じて再確認をしていきます。 重度化しそうな段階で、受診にご家族も同席していただき、今後の可能性や支援の方向性について話合うようにしています。	ホームでの看取りはまだないが、看取りのマニュアルを準備中であり、前向きに取り組んでいる。家族の希望で、もしもの時の医療に関する希望である「リビングウィル」を提出して生前の意思表示をしている利用者もいる。	利用者が抱えている現状を踏まえ、速やかにマニュアルを完成させると共に、ターミナルケアの研修機会を設けることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での「救急講習会」に、順番に全員参加しました。 容態の不安定な方が出た場合には、看護師から臨時の対応指示が出ます。急変の場合は、看護師に連絡を取り指示を仰ぎます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練、地震避難訓練を毎年書く回ずつ実施。水害等の危険がある場合は、でらいと島田に一時避難となっています。	備蓄確保と定期的な防災訓練を行っている。地域の防災訓練や消防署の救命救急講座にも参加しているが、入居者が要援護者に該当しないため、未だ地域の協力体制が得られていない。	突然の災害は命にかかわる事でもある。行政や地域に協力を求め続けると共に、持ちつ持たれつの親密な近所づきあいを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修や職員ミーティングを通して、意識の維持を図っています。	個人情報でもある写真の使用に関しては、必ず入居時に承諾を得て使用している。経過記録には本人以外の記名はせずイニシャルで示し、プライバシーを損ねないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、ご本人の希望を確認しながら行うように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員研修や職員ミーティングを通して、意識の改善を図っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ心を失わないように、起床時などを中心に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁仕事、よそり分け、味見、食器洗い、食器拭き、メニューの相談　等を一緒に行なっています。	職員と一緒に近所のスーパーに食材の買い物に行ったり食器を拭くなど、一人ひとりの力を活かしながら出来ることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を摂る習慣の少ない方のために、バラエティーに富んだ飲み物を提供しています。糖分や塩分を摂りすぎないよう、持病や嗜好とのバランスを考慮しています。本人やご家族様の食事への意向を重視しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在、居室で自立、居室で見守り・声掛け、共同洗面所で半介助の方々がいらっしゃいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、ショーツ6名、リハパン3名です。	下剤服用の利用者に対しては、徹底した管理の下で微調整を行っている。失敗を減らすように支援することで、トイレでの排泄を継続している。現在はおむつやポータブルトイレの使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の管理と、マグミットでの排便調整を小まめに行なっています。ラキソベロン、プルセニド他のきつい薬の使用はほとんどなく調整されています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	三日毎のおおよその目安はありますが、本人の希望による変更は自由です。本人の希望で月水金と曜日を決めている方もあります。	入浴を拒む利用者に対しては、把握している生活歴や性格を活かし、気持ちよく入浴して頂ける言葉かけやタイミングで入浴に導いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアーの物音が気になっていた方の居室変更が実現できました。基本的には、個々の自由を認めています。生活意欲の低下が著しい方には、ご家族や本人と話し合い、活動の声かけをさせて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報がいつでも確認できるように配置しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下ごしらえや調理、洗濯物の出し入れ等、それぞれに得意なことを役割として行ってもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お買い物の同行、受診後の寄り道、朝のごみ出し、夕涼み、等は本人の希望を優先しています。ご家族による親族・友人宅訪問や、行き付けの店へのお買い物もみられます。	外出機会を減らさないために、食材は法人所有の農場からではなく、スーパーに買い出しに出かけている。金谷の日限地蔵にドライブに出かけて好きな物を食べたり、100円ショップで好きな物を買ったりすることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段使いの持たないと不安な方は、個人でお財布を持っていますが、中身の紛失についての責任は負いません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居直後は家族への抗議の電話になってしまう為、ご家族からかけないように希望がでます。毎日要望が続く場合などは、まず職員が家族に状況を説明してからご本人と代わります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩で摘んだ花や庭の花をよく飾っている。季節に併せて皆さんと手作りした予定表を掲示している。 夕方からのTVやCD音は、時代劇や静かな音楽にして、自然に就寝に繋がるように配慮している。	昼食後のひと時の畳コーナーでは、職員が取り込んだ洗濯物をたたんでいる利用者や、壁にもたれ足を伸ばして寛ろぎながらおしゃべりを楽しんでいる利用者が観られる。自由に過ごせる共用空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳空間やソファーによく集まっています。集まる人数に併せて椅子を自由に動かします。今の周りに居室があるので、横になりたい方は居室で横になっています。扉の開閉は本人の自由意志です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ、ご家族によって工夫をされている。	自分らしく過ごせる工夫がされている。コルクボードに孫やひ孫の写真を飾ったり、共用の洗面台ではなく、自室の洗面台で歯磨きをする利用者など、本人の意向を取り入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにマークを貼っている。 物干しは室内と外の両方にあり、自分の服をいつでも気にかけられる。		